

笑顔あふれるまちづくり



**いいぬま雅子**

日本共産党品川区議会議員区政報告

NO. 342. 2010. 3. 14.

# 本会議場がバリアフリーに

# 昇降機の初乗りはT君

## 議会傍聴ありがとうございました



議場から見上げた傍聴席の昇降機

25日には本会議で一般質問を行いました。3月1・2日は厚生委員会、4日は環境対策特別委員会、5日からは予算の特別委員会です。順次報告させていただきます。

**「車イスでも議会傍聴ができるように」  
障害者の方々の請願実る**



「品川区議会の本会議場を車椅子の人も傍聴できるよいに、バリアフリー化してください」1年半前に議会に出された請願がやっと実現しました。25日の一般質問傍聴に来てくださったお母さんがベビーカーを押して初乗りしました。

**(一般質問報告)**

**「詰め込み保育では健やかに育たない、待機児解消は認可保育園の大幅増設で」  
.....いいぬま雅子**

未曾有の経済不況、働く女性も増え、子育て支援でも求められているのが、保育園です。認可保育園増設を求める署名が4回も議会に届いたのに、与党と濱野

区政は、拒否し続けています。今年も表のように3人に1人が入れませんでした。区長は「財政的問題は当然に考慮すべき。待機児は認可保育園だけでは解消出来ません」と答弁しました。区内を見てください。溢れた子どもたちの受け皿として、株式会社、認証保育所、ベビーホテルを次々に作っています。お母さんたちは国と自治体が責任を持つ認可保育園に入園を希望しているのです。区は今年

**認可保育園入園状況 (3月現在 単位人)**

年	申込児数 A	入園児数 B	A-B (人)
2008	1515	1095	420
2009	1589	1101	488
2010	1786	1300	486

度末に520億円の基金を積み立てる予定です。財源は十分にありません。未来の社会を担う子どもたちへの税金投入は最優先課題です。(区民アンケートでも、子ども手当よりも、保育園増設をの声を多数でした)

**誰が決めたの。5歳児を空き教室で保育。説明も準備も不十分。納得できません。**

保育園をつくらず、どのように待機児を解消するか。区は、既存の施設の活用を前面にし、認可保育園の定員増と弾力化(つまり詰め込み)と、小学校の空き教室利用を考えました。

園の5歳児を三ツ木小学校へ。子どもたちの生活はどのようになるのか。心配は当然です。ところが区長は「小学校施設を活用した保育を実施しても、5歳児が保育園の園児である事は何ら変わりはないです。むしろ広々とした学校施設を活用できますので伸び盛り元気な5歳児にとって活動しやすい環境になります。様々な行事等を通じて異年齢の園児とも十分ふれ合うので安心ください」と答弁しました。学校と保育園を1日に2往復したり、学校が休みの日は、昼食もおやつも捕食も保育園で食べるのですから、居場所が必要です。ところが、5歳児の部屋は、012歳児の待機児解消のための部屋となっています。



園の5歳児を三ツ木小学校へ。子どもたちの生活はどのようになるのか。心配は当然です。ところが区長は「小学校施設を活用した保育を実施しても、5歳児が保育園の園児である事は何ら変わりはないです。むしろ広々とした学校施設を活用できますので伸び盛り元気な5歳児にとって活動しやすい環境になります。様々な行事等を通じて異年齢の園児とも十分ふれ合うので安心ください」と答弁しました。学校と保育園を1日に2往復したり、学校が休みの日は、昼食もおやつも捕食も保育園で食べるのですから、居場所が必要です。ところが、5歳児の部屋は、012歳児の待機児解消のための部屋となっています。

**区長「詰め込み否定」しかし実態は一人畳2枚のみ**

厚労省の委託研究が、食べる部屋と寝る部屋の分離を求め最低基準の引き上げが提案しています。

今回定員拡大をする19園の保育室と遊戯室の総面積を、0〜5歳児の総数で割ると一人当たり、3.57㎡です。私が畳2枚で生活していると伝えると、区長は「区民に誤解を与えないように」とと注意を促しました。一人一坪の面積に、机や椅子、ロッカーが置かれていのです。更なる詰め込みは絶対反対です。待機児解消は、認可保育園増設で！量も質も向上させるのは大人の責任。運動なくして実現はしません。

### 村山祐一帝京大学教授 保育研究所所長の談話

5歳児は、保育園でこれまで培ってきた経験や力を総まとめし、達成感を持つ幼児期の総仕上げの時期です。子どもは達成感を持って、小学校という新しい環境にチャレンジしていくのです。

保幼小の連携はまだ研究段階であり、十分な検証や条件整備が必要です。品川区の計画には、子どもを不安定にさせる要素があり、心配です。保育園から時間を区切って子どもを切り離すこと、学校や保育園を行ったり来たりしなければならないことなど、不安定な環境は、学校との「連携」にとってもマイナス。また学校選択をとる品川区では、年長児はかならずしも同じ小学校に入学するとは限らず、連携の問題は一層深刻になります。

専門家を入れて慎重に検証し子どもにとって必要な環境整備やプログラムの改善をしながら進めていくことが大切です、教員や保育士の参加は不可欠です。